

旧オルト住宅

旧オルト住宅は、西洋の建築家によって設計されたと考えられているが、1865 年ごろに日本人大工の小山秀之進(1828~1898 年)によって建てられた。この家は、イギリス人商人ウィリアム・ジョン・オルト(1840~1908 年)とその家族のために建てられた。オルトは、1859 年に長崎に着き、紅茶、植物口ウ、樟脳オイルを輸出して財を成した。1868 年、長崎を離れ、一家で大阪に移住。出発後、メソジスト女学校やアメリカ領事館など多くの手を経て、1903 年にリンガー家が取得した。第二次世界大戦が始まるまではリンガー家が所有しており、1943 年に川波工業が取得しました。戦後長らく放置されていたが、1970 年に長崎市が取得し、1972 年に国の重要文化財に指定された。

その家のデザインは和洋折衷だ。ベランダやポルティコの周りのトスカーナの柱は煙突と同様に明らかに西洋風だが、建物は日本の木枠構造で、屋根は伝統的な粘土瓦で覆われている。

採用番号 NO :	023-008
-----------	---------